

BankART1929

BankART1929 Yokohama
〒231-8315 横浜市中区本町6-50-1
TEL 045-663-2812 FAX 045-663-2813
BankART Studio NYK
〒231-0002 横浜市中区海岸通3-9
TEL/FAX 045-663-4677
info@bankart1929.com
http://www.bankart1929.com

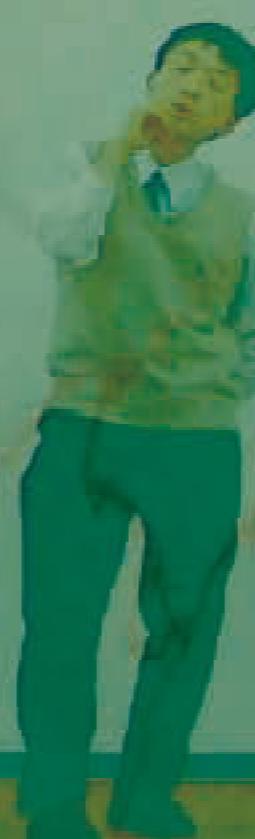
BankARTスクール

美術・演劇・音楽・建築・写真・ダンス

講師は各ジャンルの第一線で活躍する人たち

はつきりいいましょう。
だからすばらしい！

アートなどなんの役にも立たないものです。



BankARTスクールは、横浜・馬車道に残る歴史的建造物を芸術文化の場に再活用したBankART1929のプログラムのひとつとして、2004年4月に開校しました。

BankARTスクールの守備範囲は美術・演劇・音楽・建築・写真・ダンスなどアート全般におよび、講師は各ジャンルの第一線で活躍する人たちばかり。子供向けのワークショッピから専門性の高い大学院レベルの講座までさまざまですが、いずれも少人数制で、講師と受講者、あるいは受講者同士の親密な交流を重視する現代の寺子屋をめざします。

BankARTスクールは日曜以外のほぼ毎日、休みなく開講しています。初年度は1年間で計32講座を開きました。1講座は週1回2時間（前期は2時間30分）ずつ2カ月間（計8回）続くので、延べ520時間がこれらの講座に費やされたことになります。受講者は延べ507人、お招きした講師は計93人で、ゲストを含めれば優に100人を超えます。

はつきりいいましょう。これらの講座を受けたところで即戦力にはならないし、なにか資格が得られるわけでもありません。アートなどなんの役にも立たないものです。だけど／だからすばらしい！と思える人間が受講されれば、毎回120分は至福の時が約束されるでしょう。

BankART school

2005年度前期募集案内

第1期

2005
6
—
7
月

五十嵐太郎+磯 達雄

「建築批評講座2—建築の見方・書き方」

6月6日・13日・20日・27日／7月4日・11日・18日・25日



2004年度前期第二二期に開講され、好評だった「建築批評講座」の第二弾。建築論、書評、エッセイ、批評、ルポなど、建築に関する文章の書き方を学ぶ。最終成果物を雑誌としてまとめ、BankARTショップで販売する予定。

五十嵐太郎：1967年パリ生まれ。東北大助教授。主な著書に「終わりの建築／始まりの建築—ポスト・ラディカルズムの建築と言説」(INAX出版)、「新宗教と巨大建築」(講談社現代新書)などがある。

磯 達雄：建築ジャーナリスト。1963年埼玉県生まれ。88～99年「日経アーキテクチュア」編集部。2000年～フリーランス、02年～フリックスタジオ共同主宰。共著に「建築の書物／都市の書物」(30代建築家30人による30の住宅地)(INAX出版)などがある。

宮沢章夫

ワークショップ「からだが発する言葉」

6月7日・14日・21日・28日／7月5日・12日・19日・26日



なにをするのも、まずは「からだ」である。こうして文章を書いているのは「手」だ。「手」が動かなければ言葉を文字にすることもできないが、べつにスポーツ選手のような運動能力の高さが必要ではない。固くて窮屈なからだでも、きっと自分なりの言葉をからだは発してくれ。その「からだ」を発見するため、これはトレーニングだ。

宮沢章夫：劇作家・演出家・作家。1956年静岡県生まれ。90年、作品ごとに俳優を集めて上演するスタイルの「遊園地再生事業団」の活動を開始し、「ネミ」(92年)で岸田國士戯曲賞受賞。10年間で十数本の舞台作品を発表後、休止期間を経て、2003年に新たな公演活動を開始する。最新作は05年「トヨヨー／不在／ハムレット」。その他エッセイ、評論、小説など執筆も多く、05年からは早稲田大学客員教授に就任するなど活動は多岐に渡る。

飯沢耕太郎

「ポートフォリオ(写真集)を作る」

6月29日／7月6日・13日・20日・27日



自分の作品をプレゼンテーションするためにポートフォリオ(手作り写真集)を作ることは、写真家としての活動の第一歩です。本講座では、写真評論家としての経験を踏まえて、具体的なアドバイスをしながら、実際に受講者ひとり一人のポートフォリオを完成していただきます。最後にそれらの成果を展示、発表する機会も設けたいと考えています。

飯沢耕太郎：写真評論家。1954年宮城県生まれ。77年日本大学芸術学部写真学科卒業。84年筑波大学大学院芸術学研究科博士課程修了。以後、フリーの写真評論家として活動する。主な著書には「芸術写真」とその時代」(筑摩書房)、「日本写真史を歩く」(新潮社)、「荒木！」(白水社)、「フォトクラファーズ」(作品社)、「写真美術館へようこそ」(講談社)、「私写真論」(筑摩書房)など。1990-94年、写真誌「déjà-vu」編集長も務めた。

※プレゼンテーションはBankART1929の施設を使用。展示・講評会を予定(日時は調整)

ハマトリが行く！

6月9日・16日・23日・30日／7月7日・14日・21日・28日

2005年9月28日からオープンする第二回横浜トリンナーレのディレクター・キュレーター・組織委員会等を招き、運営の構造やこれまでの取り組みと理念などを伺います。

川俣 正(総合ディレクター)：美術家。1953年北海道生まれ。77年より発表活動を始め、国内外で多数のプロジェクトや展覧会に参加。99年より2005年3月まで東京藝術大学美術学部先端芸術表現科教授。

天野太郎(キュレーター)：1955年大阪生まれ。87年より横浜美術館芸術係長として国内外での数々の展覧会企画に携わる。近年の企画展覧会に「奈良美智」展(2001年)、「現代の写真IIIノンセクト・ラディカル」(04年)。

芹沢高志(キュレーター)：1951年東京生まれ。89年、P3 art and environmentを設立。以後、現代美術、環境計画を中心に、数多くのプロジェクトを国際的に展開している。慶應大学理工学部非常勤講師(建築論)。

山野真悟(キュレーター)：1950年福岡県生まれ。「まちとアート」をテーマにした美術展、ワークショップ等を多数手がける。IAF芸術研究室主宰、ミュージアム・シティ・プロジェクト運営委員長など。

横浜市・国際交流基金

参加作家 他

美術館はどこにいく

6月10日・17日・24日／7月1日・8日・15日・22日・29日

指定管理者制度の導入で、現在美術館はその存在意義を根本から問い直されている。誰のための、何のための美術館か？各行政の個別の問題もあれば、日本の美術館の誕生にまでさかのぼる深く根ざした共通の問題もある。この講座では美術館の専門家や現場で活動する学芸員を招き、各人の立脚点から、その現状と今後の行方を探る。

木下直之：東京大学
「美術館と見世物」作品と作り物

中村 誠：埼玉県立近代美術館
「美術館の『寿命』と『賞味期限』」

太田泰人：神奈川県立近代美術館
「近代美術館は生まれ変わるか？その歴史、環境、使命をめぐって」

南 雄介：国立新美術館設立準備室
「美術館をつくることについて」

光田由里：渋谷区立松濤美術館
「誰が評価するのか 美術館と多数決」

小林真理：東京大学
「最近の文化政策の動向と美術館の行方」

深川雅文：川崎市市民ミュージアム
「ミュージアム・サバイバル－川崎市市民ミュージアムの場合」

国際展を考える

北川フラン：(株)アートフロントギャラリー代表取締役
6/25 15:00-17:00 「国際展のつくり方1」

川俣 正：美術家、横浜トリンナーレ2005総合ディレクター
7/2 15:00-17:00 「第2回横浜トリンナーレに向けて」

市原研太郎：京都造形芸術大学教授
7/9 15:00-17:00 「国際展の見方」

小沢 刚：美術家
7/9 18:30-20:30 「私の国際展体験」

石内 都：写真家、第51回ヴェネツィア・ビエンナーレ日本代表
7/16 15:00-17:00 「ヴェネツィア・ビエンナーレ報告」

長谷川祐子：金沢21世紀美術館アーティスティック・ディレクター
7/23 15:00-17:00 「国際展のつくり方2」

清水敏男：学習院女子大学教授
7/23 18:30-20:30 「国際展の新しい波」

南條史生：森美術館副館長
7/30 15:00-17:00 「国際展とはなにか」

企画協力:DNPアーカイブコムartscape

※日によって開講時間が異なりますのでご注意下さい。

第1期

2005
6
—
7
月

月 mon 19:30-21:30

火 tue 19:30-21:30

水 wed 19:30-21:30

木 thu 19:30-21:30

金 fri 19:30-21:30

土 sat 15:00-17:00

第2期

2005
8
—
9
月

福住 廉+土屋誠一+奥村雄樹

「アートを書く／書かれたアートを読む」

8月1日・8日・22日・29日／9月5日・12日・19日・26日



美術評論家や美術記者ではなくともアートを書くことはできます。今回は文章を書く実践を繰り返しながら、アマチュアのライターになることをを目指します。最終的には、「第二回横浜トリンナーレ」を題材としたレポート集を作る予定。また、どのように「書くか」ではなく、どのように美術批評が「書かれたか」を考察します。この検討を通じて、いかに見ることができるか、考えることができるかを明るみにします。

福住 廉：1975年生まれ。ライター。九州大学大学院比較社会文化府博士課程単位取得退学。美術出版社主催第12回芸術評論で佳作受賞。「読売新聞」、「美術手帖」などで展評や記事を書く。土屋誠一：1975年生まれ。美術批評家。論稿に「平面・反復・差異・アンディ・ウォーホルの二連画について」、「戦時体制下の写真批評—瀧口修造を読む」など。

奥村雄樹：1978年生まれ。美術作家として国内外で活動する傍ら、「美術手帖」にて展覧会レビューを担当、Hiromi Yoshii Fiveにて「The World is Mine」展をキュレーション。

岡田利規

ワークショップ「僕らの言葉と身体のこと」

8月9日・16日・23日・30日／9月6日・13日・20日・27日



演劇って要是言葉と身体であります。だから僕は、言葉・身体・その二つの関係、それなら三つについてはおのずと考える日々なわけです。なのでここでは、それらの「三つ」をいじるといういう面白いことになるか、時間の許す限りたくさんでみたいと思います。話し合ったり、実践したりしながら、遊びながら、やなくて、遊びみたいなもんです。

岡田利規：劇作家・演出家。横浜を拠点に活動する演劇ユニット「シェルフィッシュ」を主宰。超リアルな日本語によるテキストと、日常的なだらしない身体性とを駆使した手法で注目される。2005年2月「三月の5日間」で第49回岸田國士戯曲賞受賞。

<http://homepage2.nifty.com/chelfitsch/>

みかんぐみ

都市のカタログ

8月3日・10日・17日・24日・31日／9月7日・14日・21日・28日



都市を構成している部位について研究します。部位のどのような側面に注目をするのか、そして、それらが、今日の社会的な状況と、どのようななかかわりをもっているのか、といったようなことにについて、みんなでディスカッションしながら考えていただきたいと思っています。

みかんぐみ：1995年設立の加茂紀子、曾我部昌史、竹内昌義、マニエル・タルディックの4人による建築家ユニット。戸建住宅から、保育園、グループホームやマイクロハウスなどの建築設計を中心に、家具、プロダクト、展覧会でのインスタレーションなど幅広くデザインを手がけている。2004年「食と現代美術」展で、「ハンガートンネル」、「マニアタハウス」を制作。主な作品に、「me ISSEY MIYAKE」、「北京建外SOHO低層商業棟」、「愛・地球博物館グローブ館」など。

※8月9日のすべての水曜 全9回(ただし、8月3日は、顔合わせに短めの講義とします)

小崎哲哉+藤原えりみ

編集の方法

8月4日・11日・18日・25日／9月1日・8日・15日・22日



現在、最前線で活動する編集者による、実践的な編集の方法論のゼミ。アート雑誌やカルチャーウェブマガジン編集長の小崎哲哉が前半を担当。雑誌、ウェブサイト、写真集など具体例を示しつつ、インターネット時代の編集作法とメディアリテラシーを説く。後半は藤原氏が担当し、実際に携わった事例(ブルータスのアート特集、小学館の週刊美術館、タカナカノリユキ作品集『PAGES』など)をもとに、美術本の編集のプロセスを解説する。

小崎哲哉：日本初のバイリンクルアート雑誌『ART iT』、カルチャーウェブマガジン『REAL TOKYO』、コラムサイト『先見日記』の編集長。写真集『百年の愚行』も企画制作した。www.realtokyo.co.jp 藤原えりみ：雑誌『みづゑ』の編集スタッフを経て、約10年間、雑誌『ブルータス』のアート担当を務めるなど、フリーで美術記事の企画や本作り、翻訳や執筆に携わる。

矢内原美邦

ワークショップ「DANCE ACT THINKING」

8月5日・12日・19日／9月2日・9日・16日・23日・30日



踊ること演技すること、そして、表現を創っていくということをおもい難しく考へないでやってみましょう！日常生活から少しだけはなれて一緒に創って、踊って、演技してみて…少し考へる。きっと少しだけはなれて一緒に創って、踊って、演技してみて…少し考へる。日々の少しだけでいいからいろいろなことを考えてみる。対象は、一般から役者、ダンサー、振付、演出家まで誰でもOK。でも20人までです。

矢内原美邦：大学で舞踊学を専攻。ブラジル留学後、映像学校に学ぶ。1997年ダンス以外の様々な分野からなるカンパニー「二プロロール」を設立。国内外のダンスフェスティバルに招聘される。98年秋吉田国際芸術村アソシエイトとして、2000年千年文化芸術祭入選、02年バニヨレ振付賞ナショナル協議委員賞受賞。03年ACCのレジデンシーでNew Yorkにて活動。BankART1929では04年オープニング参加、05年、映像・高橋啓祐との新ユニット「Off Nibroll」として「public=un+public」を創作・発表。

深澤アート研究所

「こども造形ワークショップ」

8月6日・13日・20日・27日／9月3日・10日・17日・24日



造形ワークショップは、工作や遊びを教えるものではなく、あるテーマを基に自分たちで研究し発展させ形にするみんなとのアートです。各回のテーマとなる「素材」・「動作」・「行為」などを、たのしく表現しましょう。